

琴歌夜の鶴

荻江 全詞章

荻江節

森田勘弥相勤申候

〔二上り〕 子を思ふ道は一筋行水のかはらぬことをくどくどと、人にはそれといはでの山の
若をつらぬく男の涙袖のてまへも恥しく、其の恩愛の深見草

咲きてしをれてしをれて咲きて、心はなくな乱れ鳥

〔鳥尽くし〕 世はうたかたの粟津の鳥、可愛可愛の声聞けば、我が身の上の夕波千鳥

いはれぬ鳴の羽搔きも憂き身憂き寝のとりどりに、鶉鶉と思ひ羽の声

鳴き鴛鴦の鳴く胸はいろいろ鳥の小雀山雀鶉目白、心の駒鳥つなぎもやらず

つなげば花も散りて行く命は冥途のとりわけて、子捨つる藪に鳴く鶯の、とまりかねたる親の

身は焼野の雉夜の鶴